



インド福祉村協会(IWVS)

<http://iwvs.web.infoseek.co.jp>

現地プロジェクトマネージャー

加藤 伸也

2008年10月20日発行 第4号

10月17日 金



今日は少し少なめですが、紙芝居で説明しています。

珍しいのか、関心が高いのか身を乗り出していたり、近くまで寄って聞いていました (^0_0^).
Drは、以前は(行政だと思うけど)このような妊婦学校があった、が今は「Close」と言っていました。

Sumanが手伝ってくれたので、Drもこの紙芝居を使う気になったようですね。
男のStaffではこの紙芝居はちょっと使えないでしょうし、妊婦さんも嫌でしょう。

やっぱり、妊婦学校の先生は「女性」が一番です。

参加者の数もダントツに違います。親近感が違います。

妊婦学校が終わった後、今度は「子供」の学校に行きました。手洗いの授業です。

この説明も、SumanとUrmiraが行いました。

病院と同じシルシア村にある公立学校「Tathagat(タータガット) School」でした。

児童数は290人で写真のような教室で勉強していました。床は土です。

ここはまだ煉瓦の柱ですが、木の柱の所もあります。まだまだ、教育環境は遅れている感じです。



3, 4年前に行った学校はもっと小さく、机すらありませんでした。

そこには、幼い子供連れの生徒も居ました。



校長の話では、貧しい家庭が多く、教材・用具等が満足に使えない、と言っていました (-"-).

同じ地、クシナガルにおいて教育面で活動する「マイトリーの会」(日本のNGO)に感謝していました。

多くの子供が健康面、教育面等で恵まれる事を期待します。



しかし、教室の中に「木」が生えているなんて素晴らしいですね (^o^).